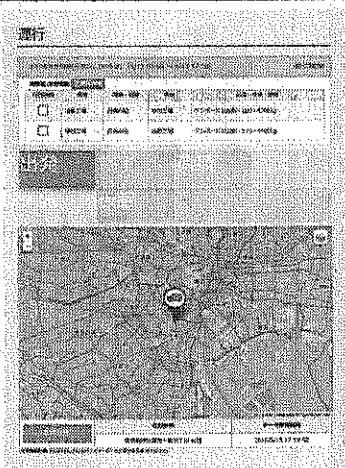


JTDDOと運管システム「こころ」開発 ポイント給与制に対応

エム・イー・シー(東京都港区)は、日本トラックドライバー育成機構(JTDDO)と共同で、ドライバーの視点を強く意識した運送管理システム「こころ」を開発した。



画面イメージ

ドライバー視点を意識

半は管理者向けのものだが、「こころ」はドライバーへのアプローチに重点を置いていく」と説明。「良いドライバーを正しく評価して育成し、なおかつ労務管理もできる」と付け加える。

同システムでは、クラウド上にドライバーごとのマイページを設け、ドライバーは自身の運行スケジュールや会社からの指示をスマホやタブレットで確認できる。

「ドライバーを管理

「ドライバーを管理

エム・イー・シー

田山教夫社長



「外にいながらも会社のサポートが受けられる体制が構築できる」。ドライバーの「評価」の面では、JTDDOの酒井誠代表理事(ナルキュウ)が提唱するポイント給与制度に対応。「業務内容ごとにポイントを設定し、手積み手下ろしや緊急対応といった負担がかる作業はポイントを多めにするなど、ドライバーの仕事を正しく評価することで公平感を生む仕組み。お金をポイントに置き換えることで、生々しさもなくなる」。

「会社が目指す方向性の作業内容のポイントを高くすることも有効。例えば、食品輸送に強みを持たせていきたい事業者であれば、洗車のポイントを通常の2倍にする、安全を最優先に考える事業者なら無事故のポイントを高めるなど、やり方を工夫することで、ドライバーが会社の方針に目を向けるきっかけとなる」と話す。

「収入をシミュレーションできるのもドライバーにとって大きなメリット。『あと何ポイント稼げばいくらかになるのか』が分かるため、休みを取る際の目安にもなる」。

同社長は、「ゆくゆくはJTDDOが提供している講義などをeラーニングの形で提供できれば」とし、「荷待ち時間を利用してドライバーは知識をさらに高めることができ、プロドライバーを育成するための手助けとなればと展望する。システム利用料は、1ユーザーあたり月額1000円(税別)。システム名の「こころ」は「心」の語源から来ており「心を持ってドライバーにサービスを」という思いが込められている。「まずは多くのドライバーに使ってもらい、いろいろな意見をいただいた上で、さらにより良いシステムにしていきたい」。(大西友洋)

「GPSをオンにすれば、ドライバーに何かしらのメリットがあるようにすることが重要な情報を入力するようしておけば、ドライバーをサポートし、利便性を高めることでドライバーからの信頼を勝ち取る」と、同システムのコンセプトを説明する。

「ドライバーを管理 具体例として、「荷